

石巻市学校防災フォーラムに参加しました(2016/8/8)

テーマ：東日本大震災、学校防災
場所：宮城県石巻市立青葉中学校

8月8日(月)「平成28年度石巻市学校防災フォーラム～学校、地域、行政が連携した防災体制の確立に向けて」が開催されました(主催：石巻市教育委員会、共催：石巻市学校防災推進会議、後援：東北大学災害科学研究所防災教育国際協働センター)。同フォーラムは、東日本大震災から5年3か月が経過した今、震災の教訓を共有し、石巻市の取組を発信すること、参加者間で学校、地域、行政の連携による防災体制の強化などについて共通理解を図り、今後の防災体制のさらなる充実・強化に資することを目的に開催されました。約350名が参加し、大震災以降、石巻市教育委員会が初めて開催する学校防災フォーラムとなりました。

午前の部では、「地域と学校が連携した防災訓練の実践」と題して、学区地域住民の参加の下、青葉中学校の生徒による津波避難訓練、避難所開設訓練等が行われました。午後の部では、「今後の防災教育と防災体制の在り方」と題して、石巻市内で展開されている災害復興・防災教育プログラムである「復興・防災マップづくり」の取り組みが、市内実践校である鹿妻小学校、住吉小学校、中里小学校、住吉中学校の児童・生徒から紹介されました。児童・生徒の間で感想が共有され、「自分たちの住む地域についてもっと調べてみたくなった」「中学生の取り組みは、自分たち(小学生)とはレベルが違うと思った」「震災当時は(幼稚園の)年中で震災のことはよく覚えていなかったけれど、中学生による幼稚園のインタビューを聞いて、そんなことがあったんだと初めて知った」等の意見が出されました。

続いて、パネル討議「地域と学校、行政が連携した防災体制のあり方」が行われました。住吉中学校 宍戸健悦校長、青葉中学校 平塚真一郎教頭、石巻市町内会連合会 吉田忠美会長、石巻市総務部危機対策課 佐藤勝治課長とともに、山形大学教職大学院 村山良之教授、当研究所からは佐藤健教授(情報管理・社会連携部門)がパネリストとして、当研究所の桜井愛子准教授(情報管理・社会連携部門)がコーディネーターとしてパネル討議に参加しました。討議では、東日本大震災の避難所運営に関する教訓と、今後の学校、地域、行政の連携について議論が行われました。石巻市内には282の避難所があり、全ての避難所に市職員を送ることはできない、東日本大震災では市役所が浸水し、3日間は市役所から出られなかったこと等を踏まえると、「学校避難所については学校と地域が連携してまずは避難所運営を行うことが求められていること」、「日頃から学校と地域の間で顔の見える関係があれば、何かあった時にもスムーズにコミュニケーションができること」、「三軒隣は両隣の精神で日頃から助けあいをすること」、「震災の経験をした教員が減り、震災のことをよく覚えていない小学生が増えていることから、震災の教訓や体験を伝えることが大切であること」、「被災経験を踏まえて災害イメージを高め、自分事として災害を捉えること」等の大切さが確認されました。学校、地域、行政がそれぞれできること、できないことを共通理解したうえで、連携を進めることの重要性が強調されました。同フォーラムは、第1回目の学校防災フォーラムとして、震災の教訓を防災の知恵とし、石巻スタイルの学校防災、学校と地域、行政の連携のあり方を形作っていくための第一歩として位置づけられます。



避難訓練の様子



復興・防災マップの発表の様子



パネル討議の様子